

平成 29 年度 第 2 回安曇野市博物館協議会 会議概要

- 1 会議名.....平成 29 年度 第 2 回安曇野市博物館協議会.....
- 2 日 時.....平成 29 年 10 月 5 日 午後 1 時 30 分から午後 3 時まで.....
- 3 会 場.....安曇野市役所本庁舎 3 階 会議室 307.....
- 4 出席者.....笹本委員、滝沢委員、赤沼委員、浅川委員、金井委員、高原委員、宮澤委員、百瀬館長（豊科郷土博物館）、荒深館長（豊科近代美術館・飯沼飛行士記念館）、斉藤館長（田淵行男記念館）、大月館長（穂高陶芸会館）、宮下館長（安曇野高橋節郎記念美術館）、清水館長（貞享義民記念館）、内川館長（臼井吉見文学館）.....
- 5 担当課出席者.....山田教育部長、那須野文化課長、三澤文化振興係長、財津博物館係長、逸見博物館係員、倉石博物館係員、宮本博物館係員、堀文化振興係員、水谷文化振興係員.....
- 6 公開・非公開の別.....公開.....
- 7 傍聴人.....1 人.....記者.....1 人.....
- 8 会議概要作成年月日.....平成 29 年 10 月 16 日.....

協 議 事 項 等

○会議の概要

- 1 開 会 （那須野文化課長）
- 2 あいさつ （山田教育部長）
- 3 報告・協議
(1) 平成 29 年度各館事業進捗状況及び平成 30 年度構想について(資料 1)
(2) その他
- 4 その他
- 5 閉 会

○協議・報告概要

- (1) 平成 29 年度各館事業進捗状況及び平成 30 年度構想について(資料 1)
各博物館の事業報告に対する委員からの意見ならびに担当者からの質疑応答

●豊科郷土博物館

- ・文化的な拠点である博物館に専門的な知識をもった職員が不足しており問題である。
- ・展示物の材質標記に疑問を持った。博物館では他館からの借用物を調査せずそのまま展示しているのか、展示にも人材不足が影響しているように感じた。
- ・夏に学校職員と豊科郷土博物館、豊科近代美術館を見学し新鮮な気持ちになった。若い人たちの呼び込みのために、夏休み時期の職員研修として博物館を訪れるようにしてはどうか。学校職員自らが地域文化を学び、授業に生かせるように考える機会になるのではないか。
- ・館内トイレ周辺の片付はしないのか。また、駐車場のブロックを 2 m ほど切れば出入りしやすくなると思う。

●豊科近代美術館

- ・春の特別展「安曇野市豊科近代美術館開館 25 周年記念 岩橋崇至山岳写真展「大地の貌」」は展示空間を生かした内容で評価できる。
- ・夏の企画展「美術館ワンダーランド 2017」は若手作家によるワークショップで若年層向けの企画をし、地域文化を若い人たちに還元したことは良い成果をあげている。今後若い人たちと共に地域文化を作っていくことに着目している。
- ・夏の企画展「美術館ワンダーランド」は豊科町時代からの名物企画であり、今回は多くの若年層が館へ足を運ぶ企画となった。これは大事であり、鑑賞者が作家の追体験ができる企画を発展させて行ってほしい。
- ・若手作家に注目したことは良い。今後は作品展示を行うだけでなく、例えば活動風景を載せた冊子にして配布する等、若手作家の活動どう応援していくかが必要となる。

●田淵行男記念館

- ・若手写真家の展示を企画するなど若年層向けの企画に挑戦している点は評価できる。
- ・館周辺の環境が良い。これからも環境美化に尽力してほしい。

●飯沼飛行士記念館

- ・時代の移り変わりとともに飯沼飛行士の偉業を知る人が減り、大変厳しい状況である。
- ・善光寺近くの町屋の展示説明の中に飯沼飛行士の名前が出てきた。田淵行男記念館のように横のつながりを利用して宣伝していくという方法もある。

●穂高陶芸会館

- ・作陶体験で制作したコーヒーカップを持参すると、豊科近代美術館の喫茶室でくつろげるといったコラボレーション企画は市民が親しめる良い企画である。

●高橋節郎記念美術館

- ・そば猪口アート公募展や、南の蔵での展示活動では地域の人を巻き込んだ企画で工夫をしている点がすばらしい。安曇野在住の作家を取り上げる等の工夫により、若い人たちの入館が増えており、その点も評価できる。

●貞享義民記念館

- ・ここは貞享義民騒動の顕彰という目的がはっきりした館であり、それが難しくもある。館の役割を見据えた企画をしないとまらない。
- ・地域とのつながりは重視すべき。地域との関わりが増えると博物館が地域になくてはならないものとなってくる。引き続きその視点での企画を希望したい。

●臼井吉見文学館

- ・安曇野市唯一の文学館であり大切にしていきたい。
- ・駐車場の看板が木に隠れているので早急に対応が必要である。
- ・周辺の景観・環境整備も集客につながるため積極的に行ってほしい。

●穂高郷土資料館

- ・今まで歴史の企画だったが、歴史以外の企画をした成果がでている。

●安曇野市美術館連携事業

- ・「体験！夏のミュージアムワークショップ大集合！」等、良い企画を行っている。また、

今後の学芸員研修事業も先進事例を行う学芸員等を講師にし、さらなるスキルアップを目指してほしい。

(2) その他

- 連携事業の「体験！夏のミュージアムワークショップ大集合！」と穂高陶芸会館のワークショップに日程が合わず参加できなかった。多くの人が参加できるよう開催を増やすなど検討してほしい。
- 無料開館の周知が不足している。やりすぎということはないので、さらなる周知をすべき。
- 避難訓練をしているか。施設ごと年2回避難・AED訓練を実施している。
- 来館者が増えると避難経路の確保が難しい。来館者、学芸員、なにより文化財である展示品を守るために免震、耐震対策も行っていたきたい。
- 学校職員を対象にした博物館を巡る研修を教育委員会主催で行ってはどうか。学校職員が率先して美術館・博物館を活用できる体制を作らなければいけない。
- 学芸員資格を有し各館に所属する学芸員で、正規職員は高橋節郎記念美術館の1名のみ、他は常勤もしくは嘱託の学芸員がいる施設、または学芸員不在の施設のみ。
この現状を受け、本協議会から博物館職員、特に学芸員の常勤・非常勤雇用の見直しを市へ求めたい。特に豊科郷土博物館への専門的な常勤学芸員1名の配置を本協議会の意見としたい。
- 提示された実施事業報告書からは、来年度以降の構想がみえにくい。各博物館の役割を再確認し、長期計画、中期計画、それに応じた館の方針を示してほしい。具体的な計画を示すことで予算要求の根拠となる。次回の報告には具体的な展望も明記してほしい。
- 次回は平成30年3月下旬を予定。

※会議概要は、原則として公開します。

※会議を非公開又は一部非公開とした場合は、その理由を記載してください。